

出展形態 大阪自然史フェスティバル2009への出展

出展形態には「屋外ブース」と「屋内ブース」があります。また、協賛していただいた企業などには「協賛ブース」を設けます。企画に合った出展形態を選び、楽しいフェスティバルにしましょう。

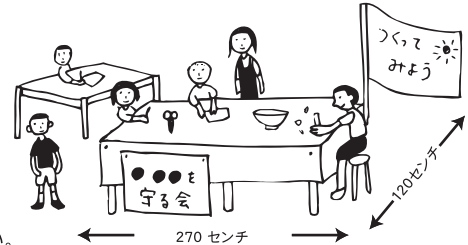
屋外ブース 屋外

オープンスペースでのハンズオン、工作・体験コーナーや、水槽を使つての生品展示に適しています。水槽・電気などを必要とする場合は出展場所が限定されます。

- 募集数・・・最大25件
- 場 所・・・博物館ポーチ（博物館本館入口前）
- スペース・・・床面積最大横幅270×奥行120センチ
- 対 象・・・団体のみ

注意

- 1 基本的に各ブース間の間仕切りパネルはありませんが、横幅120×高さ180センチの背面パネルが立ちます。
- 2 屋根はありますが、風、強い雨の際も対応できる設営をご計画下さい。
- 3 原則として屋外ブースでは博物館の展示ケースやパネルは使用できません。
- 4 屋外では、モニターやパソコンを使用する映像展示は画面が見えにくいためおすすめできません。



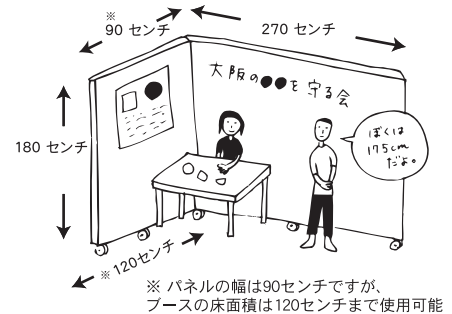
屋内ブース 屋内

博物館の展示ケース、間仕切りパネルなどを使用した本格的な展示や、モニターやパソコンを使用する映像展示に適しています。

- 募集数・・・最大50件
- 場 所・・・ネイチャーホール（情報センター2階）
ナウマンホール（博物館本館1階）などを予定
- スペース・・・床面積最大横幅270×奥行120（パネル幅は90）×高さ180センチ
- 対 象・・・団体のみ

注意

- 各ブースを区切る高さ180センチの間仕切りパネルが立ちます。ポスター等、平面展示物はこの間仕切りパネルに掲示して下さい。それ以上の高さの壁面を希望される場合はお問い合わせ下さい。



ワークショップ 屋外

1プログラム1時間以内、博物館前ポーチや長居植物園で展開できる、機材の工夫や面白い着眼点、ネイチャーゲームなどさまざまな観察・自然保護教育プログラムを実演する団体を募集します。親子層を対象とするもの、他の団体に広げたい観察手法などを持っている団体などを歓迎します。お気軽にご相談ください。

- 集合受付・・・博物館ポーチの所定場所
- 開催場所・・・植物園でのプログラム実施
- 対 象・・・団体のみ

注意

- ポーチなどで参加申込の受付を行い、プログラム自体は原則として植物園などで行ってください。



協賛ブース 屋外

協賛金をいただいた企業などの団体は、ブースでのPRや販売が可能です。自然観察機器・グッズ・書籍などの販売や、CSR・環境報告書などの配布が可能です。名義協賛も歓迎します。詳細はお問い合わせ下さい。

- 場 所・・・博物館ポーチ
- 対 象・・・企業などの団体

注意

- 協賛いただけると販売のみを目的とする出展も可能ですが、内容によってはお断りする場合があります。

共通注意事項

- ◆ 2ブース以上の出展を希望される団体は、具体的な展示内容を示した上で事務局にお問合せください。ただし、スペースの都合上ご希望に添えない場合がございます。
- ◆ 展示ケース・イス・机など備品の貸出については、詳しい種類やサイズを次回の案内物でお伝えします。
- ◆ ブースの場所によっては、多少広さが異なる場合があります。
- ◆ 出展団体が多い場合はブースの面積が当初の案内より狭いことや場所が変更になる場合があります。
- ◆ 出品物や貴重品は出展者各自で管理していただきます。